

星島文庫入手について

山口隆二

本学附属図書館に元早稲田大学教授星島茂さんが蒐集されたロバート・オーエン (Robert Owen, 一七七一—一八五八) の関係著作が所蔵されているが、その入手経路について書いてもらいたいとの話が図書館からあったので、それについて書いてみたいと思う。

元大阪市立商科大学の五島茂教授の『ロバート・オーエン著作史』(大阪商科大学研究叢書第一冊、昭和七年(一九三二)四月刊)をごらんになれば、おわかりになると思うが、この著作史のうちで星島茂さんが蒐集されたオーエンの諸著作(ここでは仮に星島文庫と呼ぶことにする)が中心になっているように思う。これは別の言葉でいえば、ロバート・オーエンの研究にとっては、星島文庫がひじょうに重要な地位を占めていることを意味する。

星島さんは早稲田大学教授としてヨーロッパへ留学され、ロンドンに滞在していた二カ年間は、毎日のように古本屋の書庫に入られて社会科学関係の書物を探し求められたようであり、その蒐集の重要な部分がロバート・オーエン

の著作であったことと考えられる。当時ソ連のリャザーノフ (David Ryazanov) がロンドンに貴金属宝飾品類を持って来ていて、それを売却しては、社会科学関係の書物を探し求めており、星島さんは、リャザーノフと競争でロバート・オーエン関係の文献蒐集をされたそうである。そういう関係からか、星島文庫のうちで重要な文献が半分しかないものがあり、このことを星島さんにお伺いすると、残りの半分はリャザーノフに買いとられて、モスクワのマルクス・エンゲルス研究所に入ったという話を聞かされた。

昭和十九年(一九四四)の秋の頃であったと思う。私は当時江戸橋にあった丸善の書庫に入って、古書を探しているうちに、ロバート・オーエン関係の著作コレクションがあるのを発見し、それを取り出して調べてみると星島茂さんの蔵書であることがわかった。それでこれは大変なものを発見したと思ったので、これはなんとかして本学附属図書館で購入したいと思った。それで書庫を案内してくれていた丸善の本田さんに、このロバート・オーエン関係の著作は本学附属図書館で購入するから、明日中に国立までかならず搬入してもらいたいと頼み、本田さんがサボって搬入がされると困るので、丸善の早矢仕課長に会ってダメをおしえておいた。というのは、この当時は空襲が毎日のようにあり、木造の江戸橋の書庫などはいつ焼けてしまうかわからなかったからである。

翌日早矢仕課長がこのロバート・オーエン・コレクションを国立まで持って来てくれたので、すぐ書庫へ入れたが、それから一週間ほどしてから江戸橋の書庫は空襲で焼失してしまった。まったく数日間の差で、このコレクションは焼失の難をまぬがれたのである。

この星島さんの蔵書がどのような経路で丸善の手に入ったかはわからないが、これが星島さんのロバート・オーエン・コレクションの全部であるとは考えられないので、このコレクションを本学附属図書館で購入することが決定した後、阿佐谷の星島茂さんのお宅をお訪ねして、このコレクションが本学附属図書館の蔵書となったことを報告し

て、このオーエン関係の書物をお売りになった本屋のことをおたずねし、さらにこのコレクションの残部がお手許に残っているならば、本学へ譲渡して下さることをお願いしたところ、私の願いをすべてお聞き届け下さった。かくして、星島さんが蒐集されたロバート・オーエン関係のコレクションはほぼ完全な形で本学附属図書館へ入ったわけである。

本学にはロバート・オーエンの諸著作がかなりあったことは、五島茂さんの『ロバート・オウエン著作史』に記すとおりであるが、それに、星島さんのコレクションがほぼ完全な形で加わり、さらに後になって外池文庫が加わったので、ロバート・オーエンの研究をする人は本学附属図書館を訪ねなければならないことになるであろう。これだけそろっているところは他にはおそらくないであろうと思う。いずれにしても、これらのコレクションが本学附属図書館に集ったことは大変うれしいことである。(一九七五年六月七日)